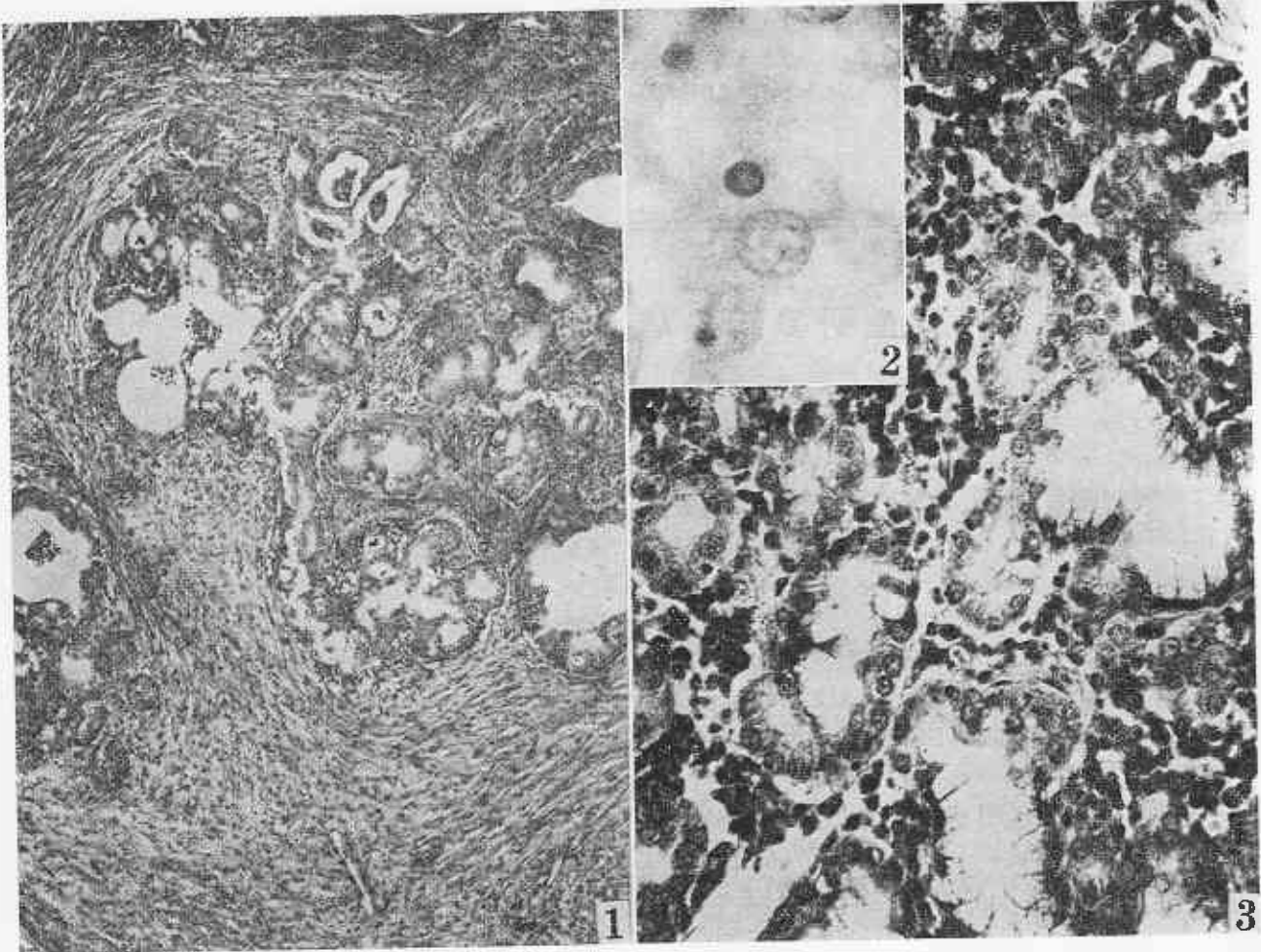


犬唾液腺の生検

北大獣医学部比較病理学教室出題・第6回獣医病理学研修会標本 No. 84



臨床的事項 1才のゴッカー・スパニエル種の牡犬。左側および右側顎下腺部にそれぞれ2個および1個の腫瘤存在。皮膚表面からの触診で、左側のそれはそれぞれ鶏卵大および菜豆大で、軟かく、弾力性に乏し。圧痛なし。試験的穿刺では何も出ず。右側のもは小鶏卵大で左側のものに比べてより軟なるも同性質のものと思われる。圧痛もなし。一般状態に異常なし。いずれの種類もワクチンも未接種。

生検：1965年8月24日左側のものを全部摘出。手術後1965年10月中旬現在で局部および一般状態に異常なし。右側の腫脹も消退。1966年3月初旬現在においても異常なし。

肉眼的所見 左側腫瘤。臨床的に鶏卵大を示したもの(提出標本)はそのほとんどが唾液腺組織。一部(a)に1.5×1.5×1.2cm大の明らかに腺組織とは異なる繊維性の硬固な組織を含む。菜豆大を示したもの(b; 標本提出せず)では剖面において内部組織軟弱で、その外周に被膜状に繊維性組織を繞らす。内部組織の被膜部に近く、一部出血性。

組織学的所見 舌下腺の一部(a)は正常構造全く示さず、疎に好中球をまじえながら、強く繊維性増殖を表現し、腺組織の活発な再生を伴う。再生腺胞はしばしば腔内に好中球をいれる(写真1)。[bの標本において腺

組織の梗塞を思わせる壊死領域あり。その周囲におけると同様の事象ありて、壊死領域に向つても繊維性増殖を示す]

a以外の舌下腺領域では間質にほぼ彌蔓性にプラズマ細胞を主体とする細胞存在(写真3)。その状それほど密ならず。ときおり巢状に間質結合織増殖を示す。かかる領域の腺組織構造乱れ、萎縮性にして、腺腔内外に石灰様物質沈着あり。腔内石灰様物質が上皮に抱き込まれる像あり。

顎下腺領域にもときおり間質結合織増殖巣あり、その領域の腺組織構造乱れ、萎縮性。巢内腺導管腔内に少数の好中球をいれるものあり。

舌下腺において、腺胞上皮原形質内に強好酸性封入体様物多数あり(写真2および3)。繊維化領域には少なし。顎下腺には見当らず。封入体様物は上皮分泌と目されるものと明らかに区別される。封入体様物の形は中央部幾分陥凹した円板状のごとき感を与える。内部に微細空腔様構造を有するものあり。封入体様物は微細なものから上皮核の約半分の大きさに至るまで様々なり。1個の細胞内に含まれるもの数も様々なり。

組織学的診断 1) 舌下腺における壊死に後続した再生を伴う反応性結合織増殖。(慢性唾液腺炎)。2) 舌下腺上皮における原形質内性強好酸性封入体様物。